

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

文化通心

2018
秋

9月1日発行(季刊)



変幻自在な男の茶湯

14年目を迎えた男性茶道軍団「茶楽」の夏のお茶会は、高松市亀水町にできた川島猛アートファクトリーで「宇宙シリーズ」の作品群に囲まれて開催。先生を囲んでお客様と対話を楽しみながら盆点前。裏方に徹するお茶もひとつのスタイル。

第四回 あ・うんの数寄講座「茶の湯をさらに楽しむ夏期講習」

代表理事 就任のご挨拶

9月から11月までの茶華道・イベント情報

財団からのお知らせ

99

発行・公益財団法人 中條文化振興財団
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号
TEL.(087)826-3355 FAX.(087)826-2212

第四回

あ・うんの数寄講座

茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

茶の湯は、日本の色々な文化の集大成と良く言われるが、決して過去のものではなく、時代の変化と共に現代まで続く日本の文化だ。言い替えれば対話の文化とも言える。すべてを知る人はいないし、人の観点も様々。茶席は学びの場でもある。この講座は、専門家をお招きして、更に楽しむ為のヒントを頂く機会。茶の湯の更なる可能性もこの中にあると信じて。

第一回 七月二十九日(日)

茶の掛物

宮武慶之(文化情報学博士)

夏の台風情報が繰り返り上がって「晴れ」を予感させながら講座がスタートしました。

講師の宮武先生が自己紹介のうちに、「祖父が琴平出身で、宮武うどんは親戚」とおっしゃられて、一同から親しみの笑聲があがって会場が和みます。最初のパソコンスクリーンには表千家久田尋牛斎宗匠の筆による「八角磨盤空裏走」の軸。先生の研究人生の指針となった禅語で、字面をたどると八角形の石臼が空を飛ぶですが、あまり馴染みのない文言の難解さに戸惑った雰囲気を感じて、あり得ないことも有る、主体性を大切に、積極的に生きることに通じると解釈がありました。

画面がフラッシュして掛物の

色々が紹介されていきます。床飾りの始まりは仏の名号など拝む対象で、禅宗の高僧が弟子に与えた印可状を表装して飾るようになったと紐解かれます。それは文字の巧拙ではなく、文字が生きたまを語ると歴史的な読み方を示唆されながら、また、字は心を伝えるものとして手紙がありますと、「源氏物語絵巻」夕霧の巻がクリックされました。これは、源氏の息子夕霧が読んでいる卷子表装の手紙を妻の雲居雁が落葉宮の恋文かと勘違いの嫉妬で、後から今にも取り上げようとするスリリングな緊張感あふれる場面です。「絵」の中の「書」を例にして、絵画や書は繰り返し見て見るものから掛けて見るものへ変化していったと纏められました。

君台観左右帳記の座敷飾りの段では中国北宋の徽宗帝の「桃鳩図」、さらに、侘茶の祖といわれ



る武野紹鴎の話では「破れ虚堂」、千利休の花入れ「園城寺」と添え文「武蔵鎧」の写真、大名茶になって軸装された殿さまの字など、時代に沿って、超有名な美術品級の話が一段落して、天皇の宸翰を掛物の第一とし、貴族の懐紙、高僧の墨蹟、家元の揮毫と説明が続きました。消息(手紙)なども歴史の舞台を彩る貴重な資料というだけでなく、茶会の道具組み合わせを雄弁に物語るものだと言明が追加されました。

現代に至って数寄者間に楽しみの茶が広がって、それぞれ個性的な字句や書体の掛物が面白がられ

るようになり、茶人の書として益田鈍翁の「鈍」、川喜田半泥子の「愛夢倶楽通志友(inglad to see you)」などなど有名人のエピソードめいた自筆の作品紹介が続きます。受講生は茶に親しむ者たちが多く、聞き慣れた人名や作品の紹介にうなずきながら先生の楽しい雰囲気の話術に引き込まれていたようでした。

茶会記などを調べていくと、亭主が選んだ優れた掛物には優れた話が隠れていて、客は亭主の思いを正確に理解してお互いの知識や感性が呼応して素晴らしい茶会が完成した様子が伺えるものがありますと、茶会における掛物の重要性を説かれます。

講座は貴重な実例写真がふんだんに使われて、さながら美術館巡りのようで楽しく、先生のエネルギーが伝わり、先生のエネルギッシュな研究足跡の余韻に浸りながら終了しました。(妹尾共子)

第二回 八月四日(土)

中村宗哲家の漆工芸と

諏訪蘇山家の陶芸

中村宗哲

(千家十職 塗師十三代当主)

諏訪蘇山

(陶芸家 諏訪家四代当主)

今回の夏期講習は茶の湯を楽しむためのお道具を作り出す姉妹のお話です。

十三代続く中村宗哲家は四百年近く続く千家十職の塗師。その元祖は豊臣秀吉の重臣一門の武士でしたが、大阪夏の陣をうとみ、京都武者小路で茶の湯をたしなみ隠栖したそうです。

初代中村宗哲は元祖の長男で、隣家に住む一翁宗守の息女と家業を迎え塗師となりました。

「武者小路千家の流祖、一翁宗守は兄宗拙と共に宗旦先妻の子であり、一時は兄同様父の下より離れ、吉岡甚右衛門と名乗り塗師を業としました。やがて千家の兄弟達の勧めでその技を初代中村宗哲に譲り、千家に復し、現在の地に茶室「官休庵」を建て、茶人としての道を歩み始めました。」※武者小路千家官休庵ホームページより引用

初代は利休形や好み道具を作し、総体薄作にて器用、棗の甲や扁平で肩の造りが美しいと高く評価されました。

その後代を重ねるごとに独自の作風を生みだし、三代は御所御用にて後桜町帝の御即位調度を作り、四代は従六位下の官位を賜り執火官となり近衛家、鷹司家の知遇を受けました。

五代宗哲の時代には天明の大火にあうも寸法帳、図案帳などを整え中村家の記録を残し、波乱の時代に生きた八代は幕末維新により屋敷接収に遭うも井伊大老好みの十二月掟や玄々斎好みの曙棗などの資料を残しました。

十代尼宗哲は明治の復興期に家業経営、技術練達に苦心した夫九代の没後、後継者を養成しつつ家業を継ぎました。尼塗りもよしの表千家十二代惺齋宗匠の仰せにより百以上の好み物を作しました。

十一代は九代の二男で大正から昭和への戦乱を経た七十年間三千家の好みのものを造り続け京都府文化功労者、茶道文化功労者となりました。

十二代は十一代の長女で昭和六十一年に襲名。女性として初めて千家十職の当主でした。彩漆器個展を各地で開催し平成五年に京都府文化功労賞、同十二年には京都府文化功労者表彰を受けました。その十二代が今回の講座の講師姉妹のお母様です。

一方の諏訪蘇山家は初代が明治

大正時代の陶芸家。明治初期に金沢で陶画を学び、その後上京し美術工芸や化学を学びました。明治中期に石川に戻り陶芸を教えています。

明治後期に京都に移り住み製陶改良に携わり彩釉透彫花瓶を製作しました。明治四十年に京都五条坂に窯を構え、七官青磁、交趾釉、白高麗、漆黒釉等、多岐に渡る様式を研究し、大正二年に鳥の子青磁を考案しました。

大正六年に宮内省帝室技芸員に選ばれ、大正九年、久邇宮邦彦王台湾訪問、大正十年聖徳太子千三百年忌等に際し作品を献上しました。

二代は初代の姪で養女となり諏訪蘇山を襲名、三代は二代の甥で京都市立美術大学陶磁器科を卒業後、諏訪蘇山を襲名しました。そして三代がこの姉妹の父親です。

次女が中村宗哲を、三女が諏訪蘇山を襲名しました。

塗師の中村宗哲家の仕事は新しいものを作り出すこととは別に、これまで培われてきた伝統の品を決まりきった形で確実に提供することだそうです。何代も守られてきた形、たとえば利休形十二器を寸分たがわず再現することです。これこそが四百年近く続く伝統の継承だといえます。

また諏訪蘇山家は青磁の伝統技法を守りながらも淡麗な釉調と洗練された端正なフォルムの現代的な感覚を加味した作品を作り続け

ています。

四代は山花水鳥、星や天空をテーマとして、花入れや茶碗、水指、香炉などを手掛けています。

姉妹には上にもう一人姉がいて今は金属彫刻作家で三姉妹で協力した作品も作られているそうです。

物作りの家に生まれた両親のもと、祖父である十一代中村宗哲と共に幼少期を過ごし、技術と感性を研ぎ澄ましたお二人のお話には伝統を継ぐ責任感とともに、ものづくりの楽しさが伝わってきました。(香川二郎)

第三回 八月五日(日)

お茶と養生

『喫茶養生記』を中心に

岩間眞知子

(日本医史学会代議員、
人間文化研究機構共同研究員)

岩間先生との出会いは、熊倉先生が監修されたお茶に関する女性研究者のセミナーでした。この時は、お茶は薬かということ、八世紀の中国の茶聖陸羽の『茶経』など、昔の文献から読み解くというものでした。

お茶に関わる人は、文献を丁寧に読み解くのは苦手な人も多く、これはいい機会と思い講演をお願いしました。

さて、京都建仁寺の始祖、栄西

禅師は、日本にお茶を持ち帰り、その栽培に成功した功労者として知られています。晩年には喫茶養生記を残して、お茶の栽培方法から、飲み方、その効用までを書いています。

茶の湯を語る時には、利休さんからという事が多く、雑誌の茶道入門等の特集でもほとんどがそうですが、最近では日本の茶の湯の歴史は、栄西から始まるという説明に変わってきました。もつと以前の空海の時代にもお茶がもたらされた話がありますが、今に繋がるお茶の話は栄西なのです。

中国の最古の『神農本草経』によれば、下薬は、病氣は治すけれども、副作用のある薬。上薬は毒がなく毎日摂って命を維持する薬とあるそうですが、長く服用して命を養うものを良薬としてきました。

医者には、食医がいて、言わば料理人ですが、病氣の原因を探り、食でそれを治す。食事療法で治らなければ、薬を使う。薬食同源の考え方が、主流だったそうです。

そもそも病氣にならないための予防医学的な考え方が主流で、その為には養生するというのは、中国の考え方。気をコントロールして仙人を目指すという神仙思想も源は同じという事でした。そして、これが禅につながっていったそうです。

喫茶養生記でも「人にとって最



も賢明なことは、天から与えられた生命を大切に守り、一生健康に過ごせるよう養生に務めること」とあり、上巻では、密教の祈禱で、内なる治療。苦みのある茶を飲み、外から治療。下巻では、桑の効用について触れ、茶と桑は最高の仙薬で、その摂取が養生の妙術と説かれているそうです。

茶は坐禅を妨げる眠気を防ぎ、禅の行事に茶を用いる。桑は、菩提樹の代用として、禅の悟りを導くものと見なされていました。

利休の時代、豊臣秀吉が開いた学問所では「大相国、この中に坐し、有道の名士を集め、茶経を談じ、茶器を玩び、茶の香色を論じ、風味を賞す」という記録もあります。そして禅と共に武士の時代にも引き継がれ、現代の茶の湯の礎になりました。

茶は薬なのかという問いに対し、最新の研究でも薬としての顕著な効能は認められてはいないものの、日々摂取してアンチエイジングの薬であり、心から発する万病を癒す薬として世界中で必要とされていることが証明していると思います。(中條晴之)



代表理事 就任のご挨拶

公益財団法人中條文化振興財団

代表理事 藤川正博

本年六月十九日付で、初代・北川保夫氏、二代・木村等氏、三代・岡市友利氏の後をうけて四代目の代表理事に就任いたしました。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



想えば当時、高松市文化協会の会長であつた中條晴夫先生（元百十四銀行頭取・財団創設者）は毎年文化関係の予算が削減されてゆくのを心配されていました。この当時の銀行の定期預金の金利は5・5パーセントでありました。

中條晴夫先生は私に「資金として一億円を渡すからこれを利用して文化活動を支援する財団をつくってほしい」と言われました。財団をつくるために、銀行の勤務を終えたあと、中條晴夫先生に何度も御馳走になりながら財団設立への考えを伺うことになりました。

中條晴夫先生のお考えを実現するため、平成五年十月一日付で財団法人中條文化振興財団として基本財産一億円で発足いたしました。

しかし、そう簡単に財団をつくることができず、私が財団設立のことを聞いてから財団発足までに十年近くかかりました。中條晴夫先生の思いをかたちあるものにすべく財団の構想をつくり上げ、許可をえて、やっと財団設立にこぎつけた時の感激は忘

れることができません。

財団設立のため関係先に協力をお願いしていましたが、やっと平成三年七月になり高松市教育委員会等のご協力により財団の設立準備委員会がスタートいたしました。特に、高松市文化協会の北川保夫、市原輝士、安藤福夫の各先生方には大変お世話になりました。

財団設立後、中條晴夫先生は、突然自分名義の銀行の株式も、将来の退職金も全て財団に寄付したいと言い出しました。途中、「考え直した方が」という助言もあったようですが、最後は株式も退職金も全額財団に寄付されました。中條晴夫先生は、この財団が長く続き、今後もこの財団に寄付してくれる人が現れるのを期待しているとおっしゃっていました。

財団運営にあたっては、常に地域の伝統文化と茶道に対する創設者である中條晴夫先生の思いを原点にして努力してまいりました。この度、代表理事の職務につくことになりましたが、今後とも従来通り創設者の思いを胸に努力する所存であります。

公益財団法人中條文化振興財団は地域の伝統文化等の継承・保護のために財団賞、また県下の文化活動をしている団体等の育成のために助成金の交付を毎年おこなっています。

財団賞としては十五年以上にわたって地域の伝統文化等の継承・保護に貢献されている団体及び個人に毎年差上げています。

平成二十九年十月の二十五回目の贈呈式の時点では、合計四一の団体及び個人に差上げることができました。財団賞は、高齢化が進んだ過疎地で伝統文化を守ってこられた方々に差上げてきました。

また、活動開始五年未満の文化団体及び個人には育成を目的に毎年助成金を差上げています。

平成二十九年十月の時点で、助成金を延べ七三の団体及び個人に差上げることができました。おかげで、地元の新聞等に取り上げられるようになった方々が目立つようになりました。

平成九年には、財団の事業拠点として、事務所と茶室が完成いたしました。この茶室は、一休寺、光悦寺、金閣寺など文化財の建物を手がけられた数寄屋研究所伝庵の木下孝一棟梁にお願いいたしました。

木下孝一棟梁は打ち合わせのため高松まで来られ、設計図を前に置き、ひとつひとつの材料にこだわりながら伝統工法についてお話をされました。最近つくる茶室は鉄筋コンクリートの建物の中にあり、せいぜい茶室の寿命は七十年くらいかなとおっしゃっていました。

今回の茶室はすくなくとも二百年以上の長い寿命があるはずなので、本格的な茶室の私の最後の作品になるとおっしゃっていました。

財団行事予定

（九月～十一月）

九月

◆書道教室 毎月第一・第三金曜日

森本義人先生

九月七日・二十一日（金）午前十時～十二時

◆和菓子講座 毎月第二金曜日

高橋初乃先生

九月十四日（金）午前十時～十二時

◆ヤングヤング（子供茶の湯教室）

山下純子先生

九月二十二日・二十九日（土）午後二時～

◆月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

九月十八日（火）午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆九月月釜 五人様茶会

日時 九月三十日（日）

処 美藻庵 晴松亭（当財団茶室）

席主 棟梁 中川克英

裏千家 横井宗桂

裏千家 口入田宗美

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費 五千円

入席時間と案内（各席二時間十五分を予定）

第一席 A席・B席 九時

第二席 A席・B席 十時三十分

第三席 A席・B席 十一時十五分

第四席 A席・B席 十二時四十五分

第五席 A席・B席 十四時十五分

十月

◆財団賞授賞式・

助成金交付団体認定書授与式

十月一日（月）午前十時三十分～

◆懐石講座 三友居 山本勝先生

十月二日（火）午前十一時～午後三時

◆書道教室 森本義人先生

十月五日・十九日（金）午前十時～十二時

「はくせつとう」って？

金沢のお寺カフェでお茶をいただきました。お菓子は金沢の銘菓三品。生菓子和三盆と落雁。

和三盆や生菓子はよくいただきますが落雁は初体験でした。硬くも無く柔らかくも無く不思議な食感。そういえば子供のころにお盆のお下がりにいただいた「はくせつとう」に似ている。

帰って財団で「はくせつとう」って知ってますか？と聞いてみると誰も知らない。「え？」って覚え間違い？と思って調べてみました。一般的には「はくせつこ」と言うそうです。それほど甘くも無くぼそぼそしていて今考えるとあまり美味しいものでは無かったと思いますが、甘いお菓子の少なかった頃には希少な糖分だったのでしょう。

作り方としては落雁は熱処理した米粉を使うのに対して白雪糖(はくせつこ)は熱を通してない米粉使い最後に蒸すという違いがあるそうです。

ちなみに関西地方では落雁のことを「はくせんこ」と呼ぶそうです。



お茶の風景(1)

男性茶道軍団 茶楽

日記文学のはしりと言われる紀貫之の「土佐日記」は男もすなる日記というものを女もしてみんとてするなりと書き起こします。

男性茶道軍団・茶楽の誕生は、明治期の女学校教育で女子化されたお茶の世界を土佐日記風に、女もすなるお茶というものを男も…だったのでしょうか、また、その昔、千利休が完成させた侘茶の原点は戦国武将の男子の世界だったと、原点回帰を志した心意気でしょうか。幼い時からナントナクお茶に親しんできた者たちを中心に、お稽古を始めたり、和服を新調したりしながら形を整え活躍の場を広げてきました。

栗林公園掬月亭でのクラシックな月見茶会、川島猛アートファクトリーでの斬新な茶会、また、財団の五人様茶会で濃茶薄茶点心席の全てを担当して作法を完成させたりなど、季節や主題を大切にしながらもてなし方の工夫を重ねながら頼もしく一期一会の「お茶を楽しんでいる」ようです。



た時のお顔を忘れることができません。

建物の名称は中條晴夫先生の一字をいただき「晴松亭」とし、茶室は武者小路千家官休庵のお家元にお願ひし「美藻庵」といたしました。それぞれの扁額は、晴松亭・松平頼武様、美藻庵・お家元の揮毫をいただきました。

そして、平成九年四月十五日には武者小路千家官休庵十四代家元 千宗守宗匠により茶席披ぎが行われました。

この茶室は、財団の茶室事業の拠点としてだけではなく、流派を問わず茶の湯を嗜む方々にご利用をいただいています。

平成二十九年年度の茶室の利用状況は年間三三〇件です。利用状況の内訳をみると、貸し茶室が二三八件、財団主催事業が九二件です。人数で見ますと貸し茶室五一〇四名、財団主催事業二・八五三名、合計七、九五七名の方々に利用していただきました。

財団といたしましては県下一円で大茶会を毎年開いてきました。現在も県下の各地で茶会を開いています。

例えば、本年四月玉藻公園の披雲閣での第四回「あ・うんの数寄 若人茶会と讃岐もの」では延べ五七三名のご参加をいただきました。

その他、茶室を利用した財団の主催事業として、懐石講座、和菓子講座、書道教室、子供茶の湯教室等の事業も行っています。

公益法人制度改革にもとめない、平成二十二年四月一日より公益財団法人として、香川県内では公益財団法人移行第一号としてスタートいたしました。

今後とも宜しくお願い致します。

◆ 十月月釜 五人様茶会

わび茶にふさわしい時候の中で一刻をお過ごし下さい

日時 十月八日(月)

処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)

濃茶 石州流讃岐清水派石州会

野口宗真

薄茶 石州流讃岐清水派石州会

金澤宗和

茶席 濃茶・薄茶・点心席

会費・入席時間 九月五人様茶会と同様

和菓子講座 高橋初乃先生

十月十二日(金)午前十時～十二時

ヤングヤング(子供茶の湯教室)

毎月第二・第四土曜日

山下純子先生

十月十三日・二十七日(土)午後一時～

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

十月十六日(火)午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

◆ 十一月

◆ 書道教室 森本義人先生

十一月二日・十六日(金)午前十時～十二時

◆ 和菓子講座 高橋初乃先生

十一月九日(金)午前十時～十二時

◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)

山下純子先生

十一月十日・二十四日(土)午後一時～

月に一度の喫茶室 毎月第三火曜日

十一月二十日(火)午前十時～午後四時迄

自由なお時間にお出掛け下さい。

ランチは要予約です。

「月に一度の喫茶室」以外は予約が必要ですが、お申込み・お問合せは、

当財団事務局まで(水曜日休館)

高松市番町二丁目一十二

☎(087)826-3355

茶 華 道 ガ イ ド

安部流洗心会四国支部 ☎(0877) 86-3442

11/11 栗林公園月釜 席主：安部流四国支部
 掬月亭 前売600円・当日700円 9:00～15:00

(一財)小原流高松支部 ☎(087) 886-7851

9/16～17 いけばな小原流 第20回四国地区青年
 部合同作品展(高松) 玉藻公園桜の馬場
 無料(入園料要) 10:00～16:00

表千家同門会香川県支部 ☎(087) 845-4638

9/9 栗林公園掬月亭月釜 席主：三木宗真
 栗林公園掬月亭 600円 9:00～15:00
 11/11 東讃四季茶会 席主：岩瀬宗由
 中條文化振興財団 600円 9:00～15:00

琴平月釜茶道会 ☎(0877) 58-9551

9/9 松尾寺月釜
 席主：石州流讃岐清水派 宮武宗美
 松尾寺 500円 9:00～15:00
 10/10 金刀比羅宮例大祭奉祝奉賛茶会
 席主：武者小路千家官休庵
 田中美代子、竹井恵子、山下教子
 アクト琴平 200円 10:00～15:00
 11/11 琴平町文化祭 席主：煎茶静風流 金丸洋子
 アクト琴平 200円 10:00～15:00
 12/1～2 歳末助け合いチャリティ茶会
 琴平町総合センター 9:00～15:00
 席主(1日)：裏千家淡交会
 席主(2日)：琴平教授者(田中宗武、片桐宗恵、
 上杉宗邦、宮武宗隆)

茶華道一茶流久松会 ☎(087) 885-2322

10/28 一茶流久松会茶と花会 席主：角陸一彩
 中條文化振興財団 1,300円 9:00～14:30

茶道裏千家淡交会香川支部 ☎(0877) 62-0798

9/2 坂出分会 月釜 席主：平尾宗可社中
 勤労福祉センター 500円 10:00～14:00
 9/16 丸亀分会 月釜 席主：寺井宗祐
 生涯学習センター 500円 10:00～15:00
 9/23 善琴分会 月釜 席主：豊泉会

樟蔭軒 500円 9:00～14:00
 10/7 観音寺分会 月釜 席主：観音寺教授会A班
 働く婦人の家 500円 10:00～14:00
 10/14 坂出分会 月釜 席主：佐藤宗由
 佐藤宗由茶道教室 500円 9:00～15:00
 10/21 多度津分会 観月茶会 席主：多度津分会
 町民会館2Fホワイエ 300円 17:30～20:00
 11/3 坂出分会 文化の茶会 席主：平尾宗可
 翠松閣 600円 10:00～15:00
 11/3 丸亀分会 文化の茶会 席主：近藤宗瑞
 生涯学習センター 600円 10:00～15:00
 11/4 多度津分会 芸術展茶会 席主：多度津分会
 総合福祉センター2F 600円 9:00～15:00
 11/25 善琴分会 月釜 席主：稲毛宗敏
 樟蔭軒 500円 9:00～14:00
 12/1～2 善琴分会 年末助け合いチャリティ茶会
 席主：琴平教授者
 琴平総合会館 200円 9:00～15:00
 12/2 坂出分会 月釜 席主：田井宗久
 翠松閣 500円 10:00～14:00
 12/2 丸亀分会 月釜 席主：上川宗嗣
 生涯学習センター 500円 10:00～15:00

茶道裏千家淡交会高松支部 ☎(087) 861-3136

10/14 栗林公園月釜 席主：富家宗育
 栗林公園掬月亭 前売600円・当日700円
 (入園料別) 9:00～15:00
 <淡交会高松支部月釜>中野天満宮天神会館
 前売600円・当日700円 9:00～15:00
 9/2 席主：近藤宗多
 10/7 席主：大社宗衣
 11/4 席主：鈴木宗浩

茶道石州流琴松会 ☎(087) 888-5311

11/23 創立第52回記念茶会
 本席席主：檀原恵子、副席席主：琴松会
 玉藻公園披雲閣 1,200円 9:00～15:00

石州流讃岐清水派石州会 ☎(087) 837-4113

9/9 琴平月釜 席主：宮武宗美
 松尾寺(琴平町) 500円 9:00～15:00
 9/16 由佐城月釜茶会 席主：植田宗弘

香南歴史民俗郷土館2F
 前売400円・当日500円 9:30～14:00
 10/21 宗関公346年祭記念茶会
 席主：白川宗美社中、石原宗幹・木村宗栄・
 承先宗佳・長嶋宗恵社中
 玉藻公園披雲閣 1,100円 9:00～15:00
 10/28 長尾静風会 大茶会 席主：山崎宗壽
 長尾寺 1,200円 9:00～15:00

武者小路千家香川官休会 ☎(087) 851-2258

9/16 香川官休会月釜 席主：嶺松会
 無量寿院 600円 9:00～15:00
 11/4 香川官休大会 席主：香川官休会
 披雲閣 1,200円 9:00～15:00
 11/25 月釜 席主：小池公江
 無量寿院 600円 9:00～15:00

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087) 879-0717

<由佐城月釜茶会>
 第2研修室(和室) 500円 9:30～14:30
 9/16 席主：植田宗弘(石州流讃岐清水派石州会)
 10/21 席主：谷本宗由(表千家 土井宗以社中)
 11/18 席主：落合宗仁(茶道石州流宗家高松会)

栗林公園観光事務所 ☎(087) 833-7411

9/15～17 栗林公園 秋の高校生大茶会
 日暮亭・商工奨励館北館
 400円(入園料別) 9:00～15:00
 15日：三木高校、高松工芸高校
 16日：高松桜井高校、高松第一高校
 17日：高松商業高校、大手前高松中学・高校
 9/24～26 栗林公園 観月会(事前申込要) 掬月亭
 10,000円(入園料含む) 18:00～21:00

中條文化振興財団 ☎(087) 826-3355

9/30 九月月釜 五人様茶会 5,000円
 席主：棟梁 中川克英
 裏千家 横井宗桂・口入田宗美
 10/8 十月月釜 五人様茶会 5,000円
 濃茶：石州流讃岐清水派石州会 野口宗真
 薄茶：石州流讃岐清水派石州会 金澤宗和
 詳細は、財団行事予定をご覧ください。

11/15～1/27 第3期テーマ作品展 9:00～●
 1階「語りかける風景／絵の主人公を探して」
 2階「冬のドイツ／巡り来る季節の中で」

かまどホール ☎(0877) 46-2178

9/1～30 絵師 薩摩百倍展 お針子 横田眞由美
 「瀬戸はおだやかなり」 10:00～●
 10/6～11/4 日本新工芸家連盟四国会展
 「一期一会」 10:00～●
 11/10～12/16 速水史朗展「素材の美」 10:00～●

善通寺市教育委員会生涯学習課 ☎(0877) 63-6328

10/13～21 第19回大西忠夫展 10:00～
 善通寺市美術館
 10/8～11/25 第35回善通寺市民文化祭
 善通寺市民会館他

サクラートだつ(多度津町民会館) ☎(0877) 33-3330

10/14 チアダンス大会「ワン・スモール・ワールド
 ～チアで元気に～」 ホール 13:00～●
 10/28 第12回多度津フェスティバル 9:30～●
 11/3・4 第9回街角コンサート
 ～音楽のつどい～ ホール 9:30～●

丸亀市文化協会 ☎(0877) 24-8822

【丸亀学習センター】
 9/22～30 第14回うちわに描こう絵画展
 ギャラリー1・2 9:00～●
 30日 絵画展表彰式 3階ホール 10:00～●
 10/20・21 丸亀芸能フェスタ2018
 3階ホール 10:00～●
 <まるがめ文化芸術祭主催展覧会>
 10/19～25 前期展(書・文芸)

9:00～■
 10/27～11/3 後期展(絵画・写真・工芸)
 ギャラリー1・2 9:00～■
 11/2・3 生花 5階視聴覚室小ホール 9:00～■
 11/3 茶会 2階大広間 10:00～●
 11/3・4 あやうたふるさとまつり協賛
 3日丸亀市文化協会舞台発表 12:00～
 3・4日丸亀市文化協会 展示・茶会
 3日10:00～、4日9:30～
 11/23 まるがめ文化芸術祭主催公演
 「民謡民舞錦秋の讃華」 11:00～●

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 ☎(0877) 24-7755

～9/30 企画展「猪熊弦一郎展 風景、顔」
 展示室B・C 10:00～●
 常設展「美術館は心の病院
 猪熊弦一郎とMIMOCA」
 展示室A 10:00～●
 <丸亀ここがMIMOCA> 造形スタジオ
 毎日開催 10:30～、13:00～■
 9/15・16 ワークショップ キッズデイ
 「かお・顔・スケッチ」10:00～、13:30～■
 10/20・21 親子向けワークショップ キッズデイ
 「遊ぼう!水彩絵具と土ねんど」10:00～■

丸亀市綾歌総合文化会館(アイレックス) ☎(0877) 86-6800

10/7 中村雅俊 CONCERT TOUR 2018
 ON and ON Vol.2 Acoustic Unit
 大ホール 16:00～●
 10/27・28 第42回 香川県高等学校演劇研究大会
 第35回 香川県高等学校総合文化祭
 演劇部門大会 大ホール 9:10～■

11/3・4 あやうたふるさとまつり
 3日10:00～、4日9:30～■

丸亀市立資料館 ☎(0877) 22-5366

～9/17 次世代に伝えたい 戦争の記憶展
 1階企画展示室 9:30～■
 10/13～12/9(展示替のため11/5～9休館)
 浮世絵にみる歌舞伎の世界展
 1階企画展示室 9:30～●

三豊市文化協会 ☎(0875) 56-6251

11/24～25 三豊市文化協会文化祭「作品展覧会」
 三豊市市民交流センター、
 豊中町農村環境改善センター 9:00～■
 12/2 三豊市文化協会文化祭「芸能発表会」
 マリンウェーブ 10:00～■

あーとらんどギャラリー ☎(0877) 24-0927

9/2～23 韓 美華・杉本羽衣ー2人展 10:00～■
 9/28～30 神戸アートマルシェ(検討) 10:00～■
 10/14～11/4 谷川博子・片岡理森ー2人展 10:00～■
 11/15～25 リトルクリスマス展(検討) 10:00～■

観音寺市民会館 ☎(0875) 23-3939

9/17 第8回観音寺映画鑑賞会「愛を積みむ」と
 小ホール 10:30～、14:00～●
 9/23 一観音寺ワンコインイベントー
 菅原英基マジックオンステージ
 多目的ホール 14:00～●
 9/30 PLAY ON PASSION 2018
 小ホール 14:00～●
 10/7 劇団四季「SONG & DANCE 65」
 大ホール 17:30～●

イベントガイド

高松市美術館 ☎(087) 823-1711

- 9/15～10/21 音丸耕堂展—華麗なる彫漆世界 9:30～●
 ～9/24 第2期常設展 9:30～●
 181枚の記憶—高松市美術館特別展の
 あゆみ— 常設展示室1
 和とモダン—金工家・北原千鹿—
 常設展示室2
 9/29～10/8 井上涼 歌う美術館 9:30～■
 9/30 井上涼のコンサート 14:00～★
 9/29～12/24 第3期常設展 9:30～●
 11/3(予定) 原田マハトークショー・詳細未定
 11/3～12/16 起点としての80年代展 9:30～●

高松市歴史資料館 ☎(087) 861-4520

- 【サンクリスタル高松】
 9/22～11/11 史跡石清尾山古墳群追加指定記念展示
 「Mt.IWASEO—積石塚からみた地域の
 実像—」 企画展示室 9:00～●
 <讃岐村塾講演会> 13:30～■
 9/22 英明高等学校教諭 武重千尋
 第1集会室
 10/13 高松市歴史資料館古文書講座講師
 三谷敏雄 視聴覚ホール
 11/17 お茶の水女子大学教授 神田由築
 視聴覚ホール
 12/15 香川県地域振興参与 竹内守善
 視聴覚ホール

菊池寛記念館 ☎(087) 861-4502

- 【サンクリスタル高松】
 11/10 菊池寛生誕130年・没後70年記念事業
 《ふるさとと文学2018～菊池寛の高松》
 サポートホール大ホール 13:30～★
 11/20～12/26 第27回文学展「菊池寛生誕130年・
 没後70年記念 菊池寛をふりかえる」
 4階企画展示室 9:00～●
 11/20 講演会「文豪を家族に持つ」
 講師：菊池夏樹(菊池寛直孫・
 菊池寛記念館名誉館長)
 3階視聴覚ホール(先着200人) 11:00～■
 11/23 菊池寛作品朗読会「恩讐の彼方に」
 3階視聴覚ホール(先着200人) 14:00～■
 11/24 講演会「新出の菊池家文書から見る高松藩
 の学問と文人交流—菊池黄山を中心に」
 講師：太田 剛(四国大学文学部教授)
 3階視聴覚ホール(先着200人) 13:30～■
 <各月の文芸講座>(先着80人) ※12月は異なる
 3階第1集会室 13:30～■
 9/1 「戦後世界と<歌声>について」
 講師：渡邊史郎(香川大学教育学部准教授)
 10/6 「フランス文学から読む菊池寛の文学」
 講師：柏木隆雄(大阪大学名誉教授)
 11/17 「『万葉集』大和三山の歌」講師：東城敏毅
 (ノートルダム清心女子大学文学部准教授)
 「菊池家と高松の漢学風土」(先着200人)
 講師：田山泰三(英明高等学校教諭)
 3階視聴覚ホール

高松市生涯学習センター ☎(087) 811-6222

- 9/11 郷土の伝統工芸 讃岐かがり手まりを作ろう
 講師：讃岐かがり手まり保存会講師
 大研修室 13:00～●
 9/13 民俗への招待②
 行事と祭りの民俗学 節供について
 講師：香川民俗学会名誉会長 谷原博信
 少研修室 10:00～●
 9/21、10/19、ハープのある暮らし(全3回)
 11/16 講師：JHS上級インストラクター 生西正美
 実習室 13:30～●
 <高松市民大学2018>
 9/29 「欧州連合(EU)の現況と日本」
 講師：香川大学客員教授、
 元外務省EU日本政府代表部次席大使
 植田隆子 大研修室 13:30～■
 9/29 「将棋のふたりの天才
 —羽生善治竜王と藤井聡太七段—」
 講師：(公社)日本将棋連盟棋士九段
 小林健二 大研修室 14:50～■

栗林公園観光事務所 ☎(087) 833-7411

- 9/24～26 栗林公園 観月会・要事前申し込み
 掬月亭 18:00～●
 11/23～12/2 秋のライトアップ(入園料要)17:00～21:00

玉藻公園 ☎(087) 851-1521

- 9/22～29 「夜感無料」(夜間ライトアップ)
 18:30～21:00 入園無料■
 10/13～11/19 第63回高松市菊花展競技会 二の丸跡
 10/19 披雲閣オリジナルコンサート2018
 披雲閣 19:00～●
 11/11 屋島ライオンズクラブ茶会 披雲閣

公益財団法人香川県教育会 ☎(087) 833-0013

- 【ミュージズホール】
 9/23 MYSTERY NIGHT TOUR2018
 稲川淳二の怪談ナイト 17:30～●
 10/21 第28回グレンツェンピアノコンクール
 本選課題曲公開レッスン 13:00～●

香川県県民ホール ☎(087) 823-5023

- 【レクザムホール】
 9/8 山田姉妹ポピュラーソングコンサート
 小ホール 14:00～●
 9/14 ワンコインコンサート3
 ハーブ 福井麻衣 小ホール 11:30～●
 9/16 イヴリー・ギトリス ヴァイオリンリサイタル
 小ホール 19:00～●
 9/17 映画の楽校「大阪物語」「五瓣の椿」
 小ホール 10:30～●
 10/5 ジュゼッパ・サッパティエニ
 復活リサイタル 小ホール 19:00～●
 10/8 劇団四季「SONG & DANCE 65」
 大ホール 17:30～●
 11/9 ジョージア国立民族合唱舞踊団
 ルスタビ 大ホール 18:30～●

高松市文化芸術振興課 ☎(087) 839-2636

- 9/15～17、<街クラシックin高松> ■
 22～24 高松丸亀町番街前ドーム広場
 15日 12:30～、13:30～
 16日 12:00～、12:45～、13:30～、14:30～
 17日 12:30～、14:30～
 22日 12:00～、12:30～、13:30～、14:30～
 24日 12:30～、14:30～
 中国銀行高松支店前
 15日 14:30～、15:30～
 高松市美術館講堂 17日13:30～、15:30～
 高松市美術館 23日12:00～、13:30～
 たかまつ大道芸フェスタ 場所・時間未定 ■
 【高松国分寺ホール】
 9/23 第22回音の祭り 14:00～●
 9/24 十五夜観月茶会 ロビー 18:30～20:00 ■
 9/30 映画上映会「人生フルーツ」
 ホール 10:30～、13:30～●
 10/20 ダンスフェスティバル ホール10:00～■
 11/24 国分寺寄席(落語会) ホール 14:00～●
 11/30 ロズプリモコンサート ホール19:00～●

【サンポートホール高松】

- 9/23 音楽の絵本～親子のためのクラシック
 コンサート～ 大ホール 14:00～●
 10/6 南里沙クロマチックハーモニカ
 第1小ホール 11:30～●
 11/2 宝くじまの音楽会 南こうせつ with
 ウー・ファン ～心のうたコンサート～
 大ホール 18:30～●
 12/15 小曽根真 THE TRIOクリスマス・ツアー
 大ホール 18:30～●

かをり園 ☎(087) 821-5957

- 10/3～7 古今茶湯総合展 恒例となりました
 新古茶道具五百余点を一同に展示即売
 御坊町福善寺2階 10:00～■

桜ショップ高松店 ☎(087) 831-8866

- 9/14～22 <霽れと葵のうるし展>10人の女性作家
 が提案するハレとケの漆作品 10:00～■
 10/12～18 <小泊良 うつわ展>沖縄の陶芸家
 小泊良氏の作品展 10:00～■

- 11/23～29 <中臣一 竹藝展>現代日本を代表する
 竹藝家のアート作品からアクセサリまで
 10:00～■

ギャラリーen ☎(087) 851-3711

- <会場：ギャラリーen>
 10/23～28 藤塚光男 作陶展 10:00～■
 11/9～16 八代淳子 漆器展 10:00～■
 11/23～28 海田曲巻 作品展 10:00～■
 <会場：杜のとなり>
 10/18～28 薄井ゆかり 裂き織りバッグ展 10:00～■
 11/9～16 サラベル展 テキスタイルをあつかいます
 10:00～■

珈琲倶楽部 樺 ☎(087) 823-0160

- 9/8 コンサート～オーボエの音と過ごす午後
 演奏者：加川麻子 13:30～●
 9/9～22 「イラスト作家みみびいの
 グッズ展示&販売」 10:00～■
 10/4～21 「It's a small world」 10:00～■
 11/29 「葉膳のこと、漢方のごとくお話ししま
 せんか？」講師：島田博美(国際中医師・
 国際薬膳師) 14:00～ 料金未定

高松市香南歴史民俗郷土館 ☎(087) 879-0717

- 10/8～28 古本まつり 1階ロビー 9:00～■
 <2階市民ギャラリー> 9:00～■
 9/1～24 企画展「高松空港のむかしといま」
 9/29・30 共催展「第22回 土遊会陶芸展」
 10/8～14 共催展「第19回 香南文化交流展」
 10/20～12/2 企画展「現代刀展」

高松市石の民俗資料館 ☎(087) 845-8484

- ～9/9 企画展「第32回思可牟展」
 企画展示室 9:00～●
 9/14～23 共催展「長月展」 9:00～■
 10/6～11/11 企画展「石の里のアーティストたち
 テーマ・庵治石 Part17」
 芝生広場 9:00～■
 同時開催「庵治からニューヨークへ渡った
 7人の侍展」 企画展示室 9:00～●
 10/14 「SWJO Autumn JAZZ LIVE 2018」
 エントランスホール 14:00～■
 10/28 「津軽三味線 風にのせて」
 エントランスホール 10:30～■

土庄町教育委員会 ☎(0879) 62-7013

- 11/4 三井住友海上文化財団地域住民のための
 コンサート NHK交響楽団メンバーと
 なかまたちによる至高のハーモニ
 土庄町立中央公民館大ホール13:30～●
 12/9 第26回土庄町音楽フェスティバル
 土庄町立中央公民館大ホール13:00～■

さぬき市志度音楽ホール ☎(087) 894-1000

- <New Artists Recital> 14:00～●
 9/2 Vol.30 上田章代フルートリサイタル
 10/21 Vol.31 植田哲子・図子史子
 ジョイントリサイタル

東かがわ市教育委員会生涯学習課 ☎(0879) 26-1238

【東かがわ市交流プラザ】

- 9/22 西川ヘレン講演会「大家族 支え愛
 見守り愛 励まし愛」
 2階多目的ホール 14:00～●
 10/17 上方寄席(笑福亭枝鶴、笑福亭学光、
 笑福亭鶴太)2階多目的ホール13:30～●
 11/25 イタリアンシェフの料理教室
 調理室 10:00～●

香川県立東山魁夷せとうち美術館 ☎(0877) 44-1333

- 9/15～11/11 生誕110年記念 9:00～●
 「夢を奏でる—東山魁夷とメルヘン」
 9/29 めいぐるみの撮影会(仮称)
 エントランスホール・ラウンジ 16:00～■
 10/13 夕焼けコンサート「夢見るフルートの調べ
 ～旅と音楽に魅せられて～」
 フルーツ：三谷友紀、ピアノ：数内利枝子
 ラウンジ 18:00～■

財団の仕事について

平成五年十月に設立された中條文化振興財団の主な仕事は、様々な文化的な企画を公募しての助成金の交付および、人知れず地元の文化に貢献されている方を発掘し、顕彰する財団賞の授与を二本の柱としていました。

平成九年四月に財団の活動拠点として整備された茶室「美藻庵・晴松亭」は、貸し茶室事業として、大小様々な茶会やお茶の教室、その他の伝統文化の研修など、流派やジャンルに関係なく、幅広くご利用頂いております。言わば三本目の柱です。

本格的な数寄屋建築で立てられた茶室は、新しいものであっても文化財の保護と同様の意識での維持管理が求められます。専門の技術を持った職人さんや自然素材を材料とする建材の確保についても、常に状況を確認しておく必要があります。

数寄屋は、現代の通常の建築とは、基本的な考え方や大工や左官仕事の技術、使用する素材の確保なども大きく違う世界です。将来的には個人や行政的には管理しきれない性質の建物だと思っています。

さて、第四の柱は、この茶室を中心とした財団主催の活動について、具体的にご案内します。お茶の経験とは関係なく、どなたでも参加出来ますので興味のある茶会や講座について、事務局までお問い合わせ下さい。

茶室での主催事業

1 五人様茶会

財団主催の月釜として、ほぼ毎月開催される文字通りお客様が五人までの少人数のお茶会です。いろんな流派の先生にお願いしています。基本的には、茶事を意識した濃茶、薄茶、点心の三席構成です。日程等の詳細は、本紙の財団行事予定をご覧ください。

2 月に一度の喫茶室

変な名前ですが、本格的な茶室をどなたにでも体験していただく機会として、始めた事業です。八月を除く毎月第三火曜日、午前10時より開催。お茶席の予約はいりません。小間で濃茶席、立礼席で薄茶を基本として、初心者でも気楽にお茶の体験ができます。また、庭が一望できる広間の喫茶室では、コーヒーや紅茶、ハーブティー、中国茶などをセルフで楽しんでいただけて、入館料は千円です。ランチは別途千円で予約制(直前の日曜日まで)になります。

3 懐石講座

茶の湯は茶事にありということ、本格的な茶室を懐石料理の考え方や料理について、各お家元入の京都の三友居さんに解説していただきながら、季節のお料理を召し上がっていただきます。今年で18年目を迎え高松では得難い機会です。今年は、偶数月の第一火曜日に開催。午前の部11時と午後の部3時からの2回。参加費は、二万円です。

6 ヤングヤング (子供茶の湯教室)

小学生以上が対象のお茶教室です。子供達の能力は、非常に高いです。袱紗さばきは慣れと練習が必要ですが、ほとんどの子供達がお点前の順序などは見て記憶します。挨拶の仕方も綺麗になります。講師は山下純子先生(武者小路千家)。毎月第二、四土曜日の午後1時から。月謝は三千円です。送り迎えをしていただければ、付き添いの必要はありません。ぜひ一度見学においでください。

5 書道教室

お軸の字が読めない。という基本的な悩みから始まった講座です。講師は高校の漢文の先生で、中国茶文化研究家の森本義人先生。毎月二回(第一、三金曜日)。午前10時からの「かな実用書講座」は、現在定員いっぱいですが、午前11時からの「茶掛茶書解読講座」は若干名募集です。解読講座のみは、月謝三千円。

4 和菓子講座

茶事の好きな茶人は本来、懐石料理やお菓子も自分で料理することを目指しています。高橋初乃先生の講座は、現代の台所で短時間に作れるように、レシピを研究した和菓子を実際に作って勉強し、最後に皆さんでお茶を楽しみます。毎月一回、第二金曜日、午前10時より。参加費は三千円です。

編集後記

豪雨・猛暑・そして迷走台風と異常気象の影響で、県下も避難情報が出されました。ご苦労されたかたには心よりお見舞いを申し上げます。

四季の移ろいが判りにくくなり、人は激しい気候の変化に体調を合わせるのが大変な昨今ですが、自然界では、田に水を張ればカエルが鳴き、梅雨が明ければセミが鳴き、朝夕が涼しくなれば虫が鳴きだす。花たちも同じように厳しい日射しや雨風にもまげずに咲いている。みんな季節と共に生きています。とても素晴らしいと思います。

「想定外のこと」の多い世の中で、起きてくるいろいろなことに、抗わずに生きて行きたいと、小さな生き物や花たちを見て教えられた夏でした。

【声・情報お寄せください】

〒760-0017
高松市番町二丁目一十二
公益財団法人 中條文化振興財団編集部
TEL(087)826-3355
FAX(087)826-2212
info@chujo-zaidan.or.jp